

日本地球電気磁気学会会報(第110号)

1986年1月27日

日本地球電気磁気学会
東京都文京区弥生2-4-16
学会センタービル
(財)日本学会事務センター内
電話(03)817-5801

I 第79回総会ならびに講演会開催のお知らせ

東京工業大学のお世話で下記の通り開催されます。

1. 期 間 昭和61年4月9日(水)~11日(金)
2. 会 場 東京工業大学中棟3号館
3. 講演申込および原稿送り先

地球内部関係は

〒606 京都市左京区吉田二本松町

京都大学 教養部

住友 則彦 宛

地球外部関係は

〒153 東京都目黒区駒場4-6-1

宇宙科学研究所太陽系プラズマ研究系

鶴田 浩一郎 宛

締切り 2月26日 必着

予稿集原稿は、同封用紙に黒インクまたは黒ボールペンで丁寧にお書き下さい。用紙がさらに必要な場合は、学会事務センターあてに直接御請求下さい。

4. ポスターセッションは行いません。
5. 登壇者を論文著者の先頭(ファースト・オーサー)にして下さい。ファースト・オーサーになれるのは1人1回限りです。ほぼ同じ内容の話をつファースト・オーサーだけを取りかえて複数の論文として申し込むことはおやめ下さい。
6. 講演時間は1講演当り15分(講演12分、質疑応答3分)です。
7. 締切り日を厳守して下さい。締切日以降に到着した申込みは自動的に却下します。電話による申込みや遅延依頼は受け付けません。

8. 田中館賞候補者推薦および総会議題の申込みは3月10日までに会長宛書面でご提示下さい。

送り先 〒113 東京都文京区弥生2-11-16

東京大学理学部地球物理学教室 小嶋 稔 宛

(参考1)

田中館賞内規

第1条 田中館賞を本学会に設ける。田中館賞は本学会員の中で、地球電気磁気学において顕著な学術業績を挙げた者に授け、これを表彰する。

第2条 受賞者は、次の各項の手続きを経て決定する。

(一) 受賞候補者は、本学会員が会長に推薦する。

(二) 会長は推薦を受けた候補者につき、評議員会にはかる。評議員会は議決により受賞者を決定する。

第3条 田中館賞は賞状およびメダルとし、総会においてこれを贈呈する。

同内規施行に関する了解事項

1. 田中館賞候補者の推薦は文書によって総会開催日の1ヶ月前までにおこなうものとする。
2. 会長は推薦者に対して、候補者の主要論文の別刷など選考に必要と認められる資料の提出を求めることができる。
3. 評議員会は受賞者の選考に際し、受賞候補推薦者もしくはその代理の者の評議員会への出席を求め、説明を受けることができる。

(参考2)

長谷川記念杯内規

第1条 日本地球電気磁気学会長谷川記念杯は、地球電気磁気学界に顕著な功勞のあった会員に贈り、その業績を表彰する。

第2条 受賞者は、次の各項の手続きを経て決定する。

(一) 受賞候補者は、運営委員会によって推薦する。

(二) 受賞者の決定は評議員会の議決による。

Ⅲ 新入会員

運営委員会で次の新入会員が承認された。

玉木 賢 策 (地質調査所)

山本 衛 (京大超高層電波センター, 学生会員)

Ⅳ 奨励金応募案内

1. 朝日学術奨励金 締切り 61年2月末日

2. 山田科学振興財団研究援助 締切り 61年3月末日

申請書類については浜野運営委員(東京大学地震研究所(03)-812-2111 内線5737)に御問い合わせ下さい。

Ⅴ 人事公募案内

文部省宇宙科学研究所より下記の公募要項が発表されています。

1. 公募人員 助教授 1名

2. 所属部門及び内容

惑星研究系：超高層大気物理学部門 助教授

地球を含む惑星超高層大気に関する、主として飛翔体を用いた実験的研究。

同部門には現在河島信樹教授が在職中です。

惑星研究系には、現在上記部門の他に、惑星大気物理学部門、惑星大気計測学部門があります。

3. 着任時期 決定後の成る可く早い着任を希望

4. 必要書類 (1) 略歴 (2) 研究歴

(3) 論文リスト(タイプしたもの)及び主要論文別刷 各1部

(4) 他薦の場合：推薦書, 自薦の場合：本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先

5. 締切 昭和61年3月31日

6. 宛先 宇宙科学研究所 所長 小田 稔

〒153 東京都目黒区駒場4-6-1 電話(代表)03-467-1111

7. 問合せ 不明の点, 及び資料の請求は下記に願います。

惑星研究系研究主幹 伊藤 富造 内線347

8. 選考 選考は、宇宙科学研究所運営協議員会議に於て行います。

応募者中に適任者がいない場合、決定を留保することがあります。

9. その他 ・宇宙科学研究所は、気球、ロケット、人工衛星などの宇宙飛翔体を用いた観測実験に

よる宇宙理学研究の推進と、それら宇宙飛翔体の研究開発及びその利用を通じての宇宙工学技術の発展を図ることを目的として設置された、文部省に属する国立大学共同利用機関です。

- ・宇宙科学研究所の科学衛星・月惑星探査計画等のプロジェクトに積極的に参加する意欲のある方を希望します。
- ・封筒の表に「助教授応募(推薦)書類在中」と明記下さい。

VI 共同利用研究の公募

京都大学超高層電波研究センターから下記の公募要項が発表されています。

当センターでは、現在昭和61年度前期(61年4月～9月)の共同利用研究課題を公募中です。

共同利用研究の中心的設備となるMUレーダーは我国最初の中層・超高層大気観測用VHF帯大型レーダーであり、昭和59年度に完成しました。同レーダーは送信周波数46.5MHz、尖頭送信出力1MWのモノスタティック・パルスドップラーレーダーであり、475本の直交三素子八木アンテナとその各々に接続された固体送受信機によるアクティブ・フェーズドアレイを構成しています。この方式を用いることによって、高速度のアンテナビーム走査やアンテナの分割使用といった、従来の大型レーダーにない自由な使用が可能となっています。

現在は高度3～25kmの対流圏・下部成層圏、高度60～90kmの中間圏及び高度100～500kmの電離圏領域の観測が主に行われています。MUレーダーはハードウェアは完成していますが、ソフトウェア開発の多くの部分が今後の研究課題として残されており、多くの研究者の参加による共同利用が望まれます。他に共同利用に供される設備としてはアイオノゾンデ、TSS端末等がありません。

利用を希望される方は、下記に申請書類等が用意されていますので御問い合わせ下さい。なお、今回の締切りは昭和61年2月20日ですので御留意下さい。

〒611 京都府宇治市五ヶ庄

京都大学超高層電波研究センター事務室

TEL 0774-32-3111

(内線 3330)

VII 研究集会旅費援助応募

第6回地球・宇宙年代学国際会議出席者の旅費援助の応募要項が発表されています。

1986年6月30日から7月4日まで、英国Cambridgeで開催される6th ICGCIS(Sixth International Conference on Geochronology, Cosmochronology and Isotopic

Geology)に出席する者に対して、本田奨励金により渡航費の援助を行う。

(1) 応募資格

1946年1月1日以降出生の国内研究者。ただし、Ist author として二つ以上の論文を申し込むことはできない。(国内研究者とは、対象となる研究の主要部分を国内の研究機関で行ったものを指し、国籍は問わない。)

(2) 派遣研究者の数と援助額

約10名に総額300万円以内。

(3) 報告義務

帰国後、簡単な報告を受ける。

(4) 選考方法

応募者は、1985年度質量分析学会同位体比部会研究会(期間:昭和61年3月13日(木)~15日(土)、場所:静雲荘(箱根・強羅、文部省共済組合宿泊所)において、国際会議発表予定論文を英語で口頭発表(講演20分+討論10分の予定)していただき、選考委員会(小嶋委員長以下10名で構成)で派遣候補者を選考する。内定者のなかから国際会議のプログラム決定後に最終決定する。

(5) 応募方法

Cambridgeへ送るAbstractのコピーを添えて、2月15日までに下記に提出すること。

(6) 連絡・提出先

〒113 東京都文京区弥生2-11-16

東京大学理学部地球物理学教室

小嶋 稔

(TEL 03-812-2111 内線 4300)